

## 歓迎の辞

坂本 ただいまご紹介いただきました、派遣協会の坂本でございます。長勢先生ありがとうございました。叱咤激励をいただいたお言葉を肝に銘じて、我々努力していきたいと思えます。

それから、今日は多数の方々が多忙中にもかかわらず、このCiettのリージョナルワークショップにご参加いただき、誠にありがとうございます。また、Ciettのエグゼクティブ、執行部の方々が遠路はるばるヨーロッパ、また南アフリカから来日いただき、昨日も小さなレセプションですが会合を持って懇親を始めております。どうもありがとうございます。

本日はいつもと趣向が変わり、グローバルな視点で事実に基づいたエビデンスをベースとして派遣業界を見直していただける機会だと思っております。まず、その予備知識として、先ほどの長嶋理事長、長勢先生のお話と重なるところがありますが、さらっとおさらいをしておきたいと思えます。

労働者派遣法は1985年に成立しまして、我々派遣業界は2008年のリーマンショックまで市場規模は順調に拡大しました。厚生労働省の報告によりますと、2008年度の売上高は7兆8000億円、派遣労働者数は約400万人とピークでした。このリーマンショックの影響で派遣業界、もちろん日本経済そのものが急減速したわけですが、派遣労働者の方々も職を失い、派遣市場も縮小に転じ、現在に至っております。この派遣労働者の皆さんが失業した事実をとらえ、我が国の関係者は市場経済の構造問題というとならせず、企業の存続を図るために有期雇用、派遣労働者が失業してかわいそうだという感情論が先行した議論を優先し、規制強化を行えば問題が解決するという意見が大勢となりました。

このような意見を反映して、2008年に派遣法改正案、平成20年ですが20年法案が自民・公明党の自公政権より国会に上程されましたが審議未了で廃案となっております。その後、ご案内のように与党になりました民主党政権は、この規制内容をさらに強化した形で派遣法改正案を国会に上程しておりますが、昨年末の国会まで数度にわたる審議にもかかわらず、廃案にもならず成立もせずということで、継続審議の状況がこの通常国会まで継続しております。先ほど長勢先生がおっしゃいましたように、自民党の皆さんには大変ご支援いただいて、当初の規制の内容からは大幅に修正した形で今週にも国会、衆議院本会議を通過し、参議院に送られて成立する見込みというのが現在の状況でございます。

後ほど議論をお聞きいただけたと思えますが、Ciettの戦略レポートにおきましても、特定の規制が既に存在する国においては、政策立案者は、規制が実態を反映せず時代遅れとならないように定期的に規制を見直すべきと総括しています。我々派遣協会は派遣法改正案について、感情論が先行した議論ではなく、冷静な議論に基づく見直しということを一貫してお願いしてきました。この一部が先ほどご報告しましたように、自民党の皆さんのご支援もあり反映されて、今回の派遣法として成立する見込みです。

しかしながら、成立見込みの改正案でもやはり二十五、六年以上たっておりますので、制度疲労を起こしている面は否めません。従って、成立後も速やかに冷静な議論を継続して、抜本的な見直しをすることを関係者の皆様をお願いしていく所存です。

また、長嶋理事長が先ほど黙祷をお願いしましたが、3月11日がまためぐってきます。この大地震は、地震そのものの影響よりもその後の津波、福島県の原因の制御不能による事故の被害が大きくなりました。今年はこの東日本大震災よりの復旧・復興元年となりますが、こういう流れの中で昨年発災後、4月8日に当時の細川厚生労働大臣から人材派遣協会に対して、官民一体となった就労支援の要請がありました。この要請を受け、派遣協会は会員各社と地道に努力を継続した結果、先ほど理事長が報告しましたように約2万人の新規就労支援者数を実績として数えるに至っております。この2万人という数字ですが、同地域、同期間における厚労省の数字が出ておりませんが、推計で申し上げますと約1割以上を占めたシェアとなっております。

ご案内のように、派遣労働者は静態的な統計では労働人口の1%から2%というふうに言われておりますので、10倍の貢献をしておるといことは大いに自負していい実績だと考えております。この実績が示していますように、構造が大きく変化する労働市場においては、需給調整機能の担い手として派遣業界が果たす役割は大きく、また、Ciettの民間雇用サービスは派遣労働者にディーセント・ワーク、つまり働きがいのある、言い換えれば満足度の伴う仕事を提供できるとの分析を反映した結果だとも考えられます。

本日のリージョナルワークショップが、皆様方の派遣という働き方に対する正確な理解の一助となることを願い、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）